様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：１２１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５３７０６１６

研究課題名（和文）『日越辞典』編纂へ向けての基盤構築研究ー漢越語の使用状況と意味分析-

研究課題名（英文）A Basic Reseach on the Compilation of a Japanese-Vietnamese Dictionary -- Particularly on the Use Situation and Semantic Analysis of Sino-Vietnamese Vocabulary --

研究代表者
村上　雄太郎（Murakami, Yutaro）

茨城大学・工学部・教授

研究者番号：５０２３９５０５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：　ベトナム語では、日本語と同様に、漢語起源の語彙（漢越語）が相当の量で使用されている。本研究では、日本語話者の観点から見た漢越語の使用状況を考察しながらその意味分析を行った。
　具体的には、英語の翻訳などで考案された「越製漢語」の構成パターンと、単独で使用される時と構成要素として使用される時に異なる声調がある漢越語の意味的な特徴と、表されるのが行為者かそれとも事柄か、意味特性によってその語法も違ってくるような名詞の漢越語の構文的な特徴と、一般的な形態として使用される場合と音声的なバリアントとして使用される場合の漢越語の使い分けを考察した。

研究成果の概要（英文）：It is well known that in Vietnamese there are many words which have originated in Chinese and are often called "Sino-Vietnamese words",including Japanese-made Chinese words.Besides,in Vietnamese there are also many Sino-Vienamese words which have been made in Vietnam. The present study discusses the syntactic and semantic properties of the Sino-Vietnamese words currently used in Vietnamese.
 On the syntactic properties, we have investigated the compositional patterns of Vietnamese-made Chinese words such as the ones that are due to translation from English, and the syntactic behavior of some Sino-Vietnamese nouns in case they can be used as either nouns or verbs. As to the semantic properties, we have examined the difference in meaning between the two Sino-Vietnamese words used with different tones, as well as the choice between the normal form of a Sino-Vietnamese word and its phonetical variant, in case this word has two possible forms.

研究分野：対照言語学と外国語としての日本語教育

キーワード：漢越語　越製漢語　越化漢越要素　声調の転換　名詞の特定性　名詞としての機能性　常形漢越要素　異形漢越要素

１．研究開始当初の背景

1990 年代以降、日本とベトナムとの関係が深まるにつれ、日本におけるベトナム語学習者とベトナムにおける日本語学習者の数は急増しつつある。日本の大学でベトナム語を専攻分野として設置している東京外国語大学、大阪大学、大東文化大学、神田外語大以外にも、授業を開講しているのは東京大学、亜細亜大学、東海大学、慶応義塾大学などがある。このような状況を反映して、日本ではベトナム語の語学入門書・会話入門書が相当数、出版されている。しかるに、日本においてベトナム語関係の辞典は竹内与之助編『越日小辞典』が 1986 年に、竹内与之助・川口健一・今井昭夫編『日越小辞典』が 1985 年に出版された他、川本邦衛編『詳解ベトナム語辞典』が 2011 年に刊行されてはいるが、いずれも、両言語における慣用句や語と語の慣習的な結びつき（コロケーション collocation）の収録及びその使い分けに対する解説が不十分なのは現状である。とりわけベトナムは 80 年代後半以降ドイモイ（刷新）政策によって市場経済化をはかり、社会が大きく変貌するとともに、言語においても経営用語、金融用語、ＩＴ用語などが多用されるようになり、新しい語彙が多数登場してきている。2011 年に刊行されたばかりの上記・川本編の辞典にしても、たとえばベトナムで刊行されている『ベトナム語新語辞典』（Viện Ngôn Ngữ Học, *Từ Điển Từ Mới Tiếng Việt,* N.X.B. TP.Hồ Chí Minh, 2007）の見出し語 2500 以上のうち、およそ８割近くが未収録である。このようなことから、日本のベトナム語学習者からは収録語数が多く、時代にあった内容の『ベトナム語―日本語辞典』、『日本語―ベトナム語辞典』の刊行が熱望されている。

２．研究の目的

本研究は、『ベトナム語―日本語中辞典』・『日本語―ベトナム語中辞典』編纂の基礎とするために、現代ベトナム語と現代日本語で使用頻度が高く重要な語彙をそれぞれ約５万語選定して語義を確定し、そのうちの相当数の語彙について文例をつける作業を行って語彙集・文例集を作成しようとする、平成 21 年度～平成 24 年度の科学研究費基盤（Ｃ）「『日越辞典』編纂へ向けての基盤構築研究」の継続である。今回の研究の目的は、ベトナム語の語彙の６割以上を占めるともいわれる「漢越語」のリストアップとそのための基礎研究である。

３．研究の方法

①日本において、村上と今井が各種のベトナム語辞典や専門用語集を収集し、それらから新出の越製漢語を取捨選択し、パソコンに入力していく。
②このリストをベトナムの研究協力者４人に電子メールで送付し、検討してもらう。
③村上と今井がベトナムに出張し、ベトナムの研究協力者４人とリストについて１語ずつ検討・協議する。ベトナム人学習者としての観点から、新出の越製漢語の取捨選択をチェックしてもらう。
④以上の協議の後、残った越製漢語を確定し、語義を分類していく。

４．研究成果

ベトナム語では、日本語と同様に、漢語起源の語彙（漢越語）が相当の量で使用されている。本研究では、日本語話者の観点から見た漢越語の使用状況を考察しながらその意味分析を行った。

具体的には、英語の翻訳などで考案された「越製漢語」の構成パターンと、単独で使用される時と構成要素として使用される時に異なる声調がある漢越語の意味的な特徴と、表されるのが行為者かそれとも事柄か、意味

特性によってその語法も違ってくるような名詞の漢越語の構文的な特徴と、一般的な形態として使用される場合と音声的なバリアントとして使用される場合の漢越語の使い分けを考察した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

（１）村上雄太郎・今井昭夫、現代ベトナム語における漢越語の研究（８）漢越語とそのバリアントの意味・用法に関する諸問題、『東京外大東南アジア学』（東京外国語大学）第 22 巻、pp. 1-16, 査読有（2017 年）

（２）村上雄太郎・今井昭夫、現代ベトナム語における漢越語の研究（７）日本人学習者から見た漢越語の名詞用法の諸問題、『東京外大東南アジア学』（東京外国語大学）第 21 巻、pp. 15-33, 査読有（2016 年）

（３）村上雄太郎・今井昭夫、現代ベトナム語における漢越語の研究（６）日本人学習者から見た漢越語の声調とその使用に関する諸問題、『東京外大東南アジア学』(東京外国語大学)第 20 巻、pp. 1-9, 査読有（2015 年）

（４）村上雄太郎・今井昭夫、現代ベトナム語における漢越語の研究（５）「越製漢語」の構成パターンについて、『東京外大東南アジア学』（東京外国語大学）第 19 巻、pp. 102-111、査読有（2014 年）

〔学会発表〕（計４件）

１．村上雄太郎、日本語における複文の形成―ベトナム語の場合との対照―、2016 年度日本語教育セミナー、ベトナム・フエ外国語大学日本語日本文化学科、2017 年 3 月 3 日

２．村上雄太郎、日本語の連体修飾節構文―ベトナム語との対照を試みてー、2015 年度日本語教育セミナー、ベトナム・フエ外国語大学日本語日本文化学科、2016 年 3 月 4 日

３．村上雄太郎、日本語の連体修飾構文の内容節―ベトナム語との対照―、2014 年度日本語教育セミナー、ベトナム・フエ外国語大学日本語日本文化学科、2015 年 3 月 20 日

４．村上雄太郎、日・越両言語における取り立て助詞の用法―「まで」と“ den ”との対照を試みてー、ベトナム・ハノイ大学主催の「第 2 回国際シンポジウム“ ベトナムにおける日本語教育・日本研究―過去、現在、未来― ”」、2013 年 10 月 15 日

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
村上　雄太郎（Murakami　Yutaro）
茨城大学・工学部・教授
研究者番号：50239505

(2)研究分担者
今井　昭夫　（Imai　Akio）
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号：20203284

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者（グエン・バン・フエ、グエン・ティ・ファン・チャー、ディン・ル・ザン）